大阪天満宮社報
天満てんぢん
令和七乙巳年
新春号外
年首御慶

大阪天満宮
1125
菅原道真公
御神退1125年
式年大祭

『真実を見極める』

大阪天満宮　宮司　寺井　種治

謹んで令和七年の新年を寿ぎ御皇室の弥栄と氏子崇敬者の皆様のご健勝ご多幸を祈念し、お慶びを申し上げます。昨年の我が国は、元日に発生した能登半島地震にはじまり多くの災害に見舞われました。被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈り致します。

令和七年元旦　種治書

また夏は大変な猛暑でその影響もあり、米や野菜の価格が高騰し国民生活に大きな負担となりました。一方フランスで開催されたパリ五輪や野球の大リーグでは大谷翔平選手をはじめとする日本人選手の活躍により多くの方々が勇気づけられた所であります。コロナ禍で外出する事もままならず、集う事も許されなかった頃を思うと改めて今の生活と今生かされている事に感謝しなければならないと思います。

昨年は日本でも新総理が選出され衆議院議員選挙も行われましたが、米国では大統領選挙でトランプ氏が大統領に返り咲く事となりました。大接戦だと予想された選挙戦はアメリカ第一主義を唱えるトランプ氏の圧勝で幕を閉じました。これはアメリカ国民の民主党政権に対する危機感を示すものだとされました。どのような政策を打ち出すのかわからないトランプ氏ですが強力なリーダーシップを持っている事は評価され「強いアメリカ」を印象づけます。今後の同盟国としての日米関係は強固でなければならず注意深く見守っていきたい所です。

昨年の社報には「結」の文字を揮毫させていただきました。神様と人、人と人が御縁をいただき「御神縁」結ぶという願いを込めました。今年は「真」と揮毫致しました。恐れ多くも御祭神である菅原道真公のお名前の一字でもある文字ですが、「真実」の「真」であり嘘偽りのない正しい事、誠の心などの意味があります。世の中では様々な情報が飛び交い溢れています。インターネットやSNSなどでフェイクニュースや誹謗中傷などが日常的に流され一体何が真実なのか見極める事が困難になっています。大切なのはこれらの情報を見極め冷静に判断する事。惑わされず自分自身の信念を持ってそれに従う事だと思います。

本年は大阪・関西万博が開催される年であります。多くの海外からの観光客が大阪を訪れます。世界に大阪をPRするチャンスであり万博開催期間中に行われる当宮の天神祭も盛大に斎行しなければならないと思っています。そして当宮は令和九年に二十五年ごとの式年である菅原道真公御神退千百二十五年を迎えます。この年に向け様々な記念事業を行って参ります。一番はじめの事業として昨年十二月には千代崎行宮を御造替し、遷座祭を無事終える事が出来ました。又本年八月より本殿御屋根の銅板葺き替え工事が始まります。式年大祭に向け力を尽くして参る所存でございますので、氏子崇敬者の皆様には何卒御高配を賜りますよう宜しくお願い致します。

今年の干支

乙巳（いっし）（きのと・み）

昨年は、「甲辰（きのえ・たつ）」の年でした。

「甲」は、草木の新芽が薄い包皮を破って頭を出す姿を象形し、「辰」は、これまでの紆余曲折の活動から脱して、歩み始める字義を持ちました。世俗に言えば、それまでのコロナ禍による厳しい制約から脱し、新たな一歩を踏み出すべき年だったのです。

さて、本年は「乙巳」の年です。

「乙」は、「軋（きし）る」と同義で、早春の寒気がなお強く、草木の芽が真っ直ぐに伸びかねている状態を表す象形文字です。つまり、様々な抵抗を受けながらも、歩み進めるべきことを暗示しています。

一方の「巳」は、今まで地下に冬眠していた蛇が、春になって地表に這い出す形を表した象形文字です。私たちの生活に読み替えれば、従来の因習的生活に一区切りをつけて、新しい生活を展開させる意味になります。

よって、「乙巳」の今年は、様々な抵抗にも負けず、古くからの風習にもとらわれず、新しい生活に向けての一歩を踏み出すべきことが求められているのです。皆様にとりまして、豊かに充実した一年になりますことを祈っております。

（安岡正篤大人の著書から）

令和七年元旦

大阪天満宮

当宮所蔵「宝物・文化財」の調査と紹介ページ作成にむけて

◆「宝物・文化財」調査のこれまでと現在

当宮には数多くの宝物・什器・調度品等の「宝物・文化財」が伝えられています。当宮の信仰や歴史を正しく知るうえでも、文化史や美術史の立場からも貴重な品々です。

これまでの「宝物台帳」の類が明治期から昭和終戦直後まで幾冊もあり、克明な記載からは時々の先達の努力が偲ばれます。近時には当宮史料室（現文化研究所）によって、大阪市立博物館（現大阪歴史博物館）の協力を得て、平成六年から九年に「宝物・什器類悉皆調査」が行われました（社報26～29、33号参照）。

その成果は平成十年三月時点で宝物目録の作成、それには総項目数「七六八件」に上る絵画や工芸品の詳細なデータが記載されていますが、残念ながらその後、宝物・文化財の全貌の公開にはいたりませんでした。

こうした現状を鑑み、昨年から「平成十年宝物目録」にもとづいて再調査を進めています。就中、昨秋第二御文庫の撤去、収蔵品移動では、そこに梅花殿襖絵、御迎え人形の箱などの所在が確認されました。現在社務所の皆さんも参画してもらって調査を継続しています（写真参照）。

◆当宮ホームページに「宝物・文化財紹介ページ」を

これらの調査を受け、令和九年の菅公千百二十五年の節目もみすえてこのたび、当宮ホームページに所蔵宝物・文化財紹介ページを新設することといたしました。宝物各分野「天神画像（御神影）、御神号、縁起絵、祭礼図、御迎え人形、襖絵、奉納絵画、絵馬、石造物…」、それぞれの目録・画像付一覧表を、毎月更新して行くことを計画しています。制約もありますが、当宮所蔵宝物・文化財の幅広さ奥深さ、そしてなにより大切さを、皆様に紹介できる場にいたしたいと願っております。

（文化研究所 鈴木幸人）

調査風景（令和６年12月5日、第二御文庫に保管されていた御迎え人形の箱の調査）

境内の石碑

「大盤石」「しるべの石」「さし石」

当宮の境内には、数多くの石碑が奉納されています。神社の石碑と言えば、文学碑や記念碑などが思い浮かぶかも知れません。しかし、今回はちょっと違った役割の石をご紹介しましょう。

1、三ノ宮卯之助の「大盤石（だいばんじゃく）」

戎門（西門）を入ると、左側の門柱に隠れるように大きな楕円形の石があります（写真①）。碑面は長年の風雪に摩耗していますが、かろうじて「大盤石」、その左側に「三ノ宮卯之助」と読めます。高島慎助『大阪の力石』（二〇〇二年）によれば、天保十一年（一八四一）の奉納だと言います。

大盤石とは、江戸時代から昭和初期に流行った力競べ用の「力石」のことです。運搬作業を人力に頼らざるを得なかった時代ならではの趣味と実益を兼ねた人気の競技でした。

三ノ宮卯之助（一八〇七～一八五四）は、武蔵国三野宮村（埼玉県越谷市）出身で、日本一の力持ちと賞されました。全国各地の力試し興行で活躍し、この巨大な石も卯之助が持ち上げた証（あかし）として、その名が刻されました。同種の卯之助ゆかりの力石は全国に三十九個が確認されています。

写真①

2、迷子の「しるべの石」

天満天神繁昌亭前の大工門（北門）から境内に入ると、すぐ右手に「志留（しる）へ能（の）石」があります（写真②）。「しるべ」とは、案内や導きの意味で、この石は、迷子情報告知板の役割を担っていました。碑面の右下には、奉納者の名「北区真砂町　上田兵助・仝（同）卯之介」が刻されています。

写真②

この「しるべの石」をモチーフにした短編小説に宮部みゆき「まひごのしるべ」があり（新潮文庫『幻色江戸ごよみ』所収）、この石を次のように説明しています。

繁華な橋のたもとや神社仏閣の境内などに立てられた石柱のことである。石柱の表には「まひごのしるべ」もしくは「奇縁氷人石」、右側には「たずぬるかた」、左側には「おしゆるかた」と彫りつけてある。

「氷人」とは、子と親を結ぶ「仲人」の意です。石の片面「尋ぬる方」には、子どもを探す親が子どもの年齢や人相・衣装などを書いた紙を貼り、もう片面「教ゆる方」には、迷子を保護した、あるいは心当たりのある人がその旨を貼り付けたのです。

なお、この石の右側面には、「明治十年第五月建之　東　原田　明治廿一年一月移納」とあります。

3、三個の「さし石」

白米稲荷社の西南方向（妻社の南隣）に、楕円形の石が三つ並んでいます（写真③）。これも力競べ用の力石です。先に「大盤石」の名で紹介しましたが、こちらは「さし石」といいます。

三個のうち右の石の碑面の文字は「北継」のようにみえますが意味不明です。真ん中の石には「さし石」「八軒屋　岩造」、左の石には「さし石」「北新地　馬竹」と刻されています。

慶応三年（一八六七）の「大坂力持」番付には、東の関脇に「八軒家岩蔵」、西の関脇に「梅田ばし　馬竹」とみえますから、両人とも、かなり有名な力持ちだったようです。

なお、前掲の『大阪の力石』によれば、右の石は明治十二年、真ん中の石は明治二年のものだそうです。

（文化研究所　高島幸次）

写真③

（前列　右から）
権禰宜　江戸　英一郎
参事　稲原　亨亮
禰宜　川井　義晴
禰宜　柳野　等
寺井　圭子
宮司　寺井　種治
禰宜　津江　憲典
禰宜　菅野　喬紘
参事　三宅　隆
権禰宜　中西　佑
権禰宜　南井　広也

（二列目　右から）
権禰宜　松尾　真奈
権禰宜　須山　理絵子
権禰宜　今井　美里
権禰宜　青木　邦友
権禰宜　園　博年
権禰宜　中村　泰輔
権禰宜　國本　幸美
権禰宜　鈴木　秀法
権禰宜　中村　允
権禰宜　長谷川　将大
権禰宜　臼杵　浩秀
権禰宜　仲　真矢
権禰宜　渡邊　悠

（三列目　右から）
文化研究所　鈴木　幸人
文化研究所　高島　幸次
出仕　大須賀　弓菜
出仕　柴田　沙南
出仕　藤井　拓郎
出仕　塩見　樹
出仕　大村　高嗣
出仕　奥田　誠也
出仕　才賀崎　励緒

営繕　北野　圭将
広報企画室　保坂　幸彦
広報企画室　後藤　康文

（四列目　右から）
文化研究所　宗石　真由美
巫女　榮　万緒
巫女　島田　唯可
巫女　唯　仁美
巫女　柳村　郁美
巫女　辻田　久美子
巫女　大嶋　麻耶
巫女　吉田　みり
巫女　森下　爽子
会館　阪本　美紀
会館　松本　高始

（五列目　右から）
会館　松浦　朋華
会館　菅野　七海
会館　枡宇　美里
会館　比嘉　美央
会館　野出　歩美
会館　三橋　美来
会館　森　仁美
会館　藤川　梨沙
会館　吉井　康二郎
会館　山本　真寛

大阪天満宮社報
天満てんじん　新春号外
令和六年十二月二十五日印刷
令和七年元旦発行
発行人　寺井種治
発行所　大阪天満宮社務所
〒530-0041
大阪市北区天神橋二―一―八
TEL〇六―六三五三―〇〇二五
印刷所　木村印刷株式会社